

院長通信

少し遅くなりましたが、皆さん明けましておめでとございます。

昨年の政権交代から約半年が過ぎ、民主党の政策実行方法に賛成、反対が結構はつきりしてきたように思われます。対外国対策、特にアメリカに対しては基地問題であいまいな姿勢をとり続け、アメリカの不信感を増強させています。中国に対しては、小沢幹事長が不自然とも思える大人数を引き連れて突然訪問し、温家宝首相とのツーショット写真を全員撮ってくるなど意味不明な行動をしています。また訪問が基地問題でゆれている時期と重なったこともタイミングが悪いと感じた国民も多かったのではないのでしょうか。

国内に目を向けると、いわゆる「政治とカネ」の問題が広がっています。各政治家の政治資金管理団体の経理担当者が事情聴取を受け、一部逮捕となつた人もいます。自民党時代に民主党が批判してきた「カネ」問題を、今は全く逆の立場で批判を受けています。どの政党になつても大差がないということでしょうか。

第027号
発行所
両毛病院
編集 広報委員会

マニフェスト違反という問題も盛んに言われはじめました。当初各省庁からの予算要求は史上最高の95兆円にのぼり、あわてた民主党は「事業仕分け」と称して無駄を見つけようと躍起になりました。しかしこの仕分け作業では目標の無駄探しにはとうてい追いつかないことがはつきりし、マニフェストにあげていた約束が現実的ではないと言いつつ始めています。国民からの要望や要求をうける窓口を幹事長室に一本化してしまつたことも問題です。権力の一極集中と言うべきで、民主主義の根幹に関わることではないでしょうか。

診療報酬に関しては、医科点数として全体で0.19%の増加が政府で認められました。しかしこの金額は国庫の負担金としては160億円にすぎません。再診料の格差は正など中医協で審議されていますが、精神科に関しては精神療養病棟における重症度別点数配分、精神科デイケアの早期地域移行支援策など病院経営に直結する内容が盛り込まれています。精神科において13対1の看護基準を新設する話もありますが、これは民間病院ではほとんど無理な基準が設定され、国公立や総合

病院向けだと言われています。2月下旬には診療報酬がほぼ決定される訳ですが、今が正念場です。

第317号 院長 秋山 一郎

あの『看護の手引』が再版

昨年12月18日夜に行われた両毛病院越年会での院長挨拶の中で「精神障害者看護の手引を再版して職員に配付します」という話を聞いた時、あの本がやっと手元に届くのかという想いと13年前のことを思い出しました。

私が『看護の手引』という本の存在を知つたのが今から13年前、両毛病院創立70周年記念事業で記念誌の編集を担当している時でした。先輩職員の方から創立35周年事業では、当時院長であった秋山洋一先生と副院長であった本多誠司先生が共著され『精神障害者看護の手引』を出版されたという事を教えていただきました。そこで、ぜひ拝読したいと想い原本を探してみました。手がすることは出来ず、病棟にあったコピーされた物を拝読しただけでした。それが今回、元職員の小島幹子さんが大切にされていた原本を病院に贈呈されたことと、定子奥様（故洋一先生の奥様）のお声がかかりもあつて49年ぶりに再版し復刊されたものが今、手元にあるのは感慨無量です。

49年前の昭和36年当時にも、すぐれた精神科看護学の教本はあつたそ

うが誰れが読んでもわかり易く、また実践の現場ですぐに活用できる手引書は少なかつたそうです。そこで両先生は都立松沢病院勤務時代、恩師である林暲（あきら）先生のもと新しい時代の精神医学を学び、また看護者の指導にも当たつてこられた経験をもとに、両毛病院において他の病院がまだ取り組んでいなかった生活療法や開放看護などを導入するための指導書として、まとめたものが『精神障害者看護の手引』と聞いています。

今回13年振りにこの本を開いてみて精神科の医療も他の診療科同様に日進月歩であり、治療薬に関して現在では副作用の少ない新しいタイプの非定型抗精神病薬が開発され、刊行当時とは薬の種類も使われ方も変わつてい部分分はありますが、看護の分野に関しては、患者さんに対する看護の取り組み方や患者さんの処遇についての記載は今でも十分に通用する内容だと思えます。とくに第1部の病棟の雰囲気や看護者としての態度、第3部の生活療法や事故の防止についてなど、病院職員として知っておかなければならない事項であり、とても参考になりました。

今から49年前、この本を刊行された両先生の精神科医療に対する熱意をこの本から感じ取りながら、私も患者さんのために少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。

薬劑課

両毛旋風!!

去る10月15日、駒生球場にて日精看ソフトボール大会が行われた。我らが両毛ボンバーズは、ブローニユの森ソフトボールチームとの交流試合をはじめ、ライバルチームや地元チームとの練習試合を行い、万全の体制で今大会に臨んだ。

優勝を目指し、気合いと適度な緊張感が混じり合う中迎えた初戦。少々動きに硬さがみられるものの、要所を抑え勝利する。勝てば決勝進出が決まる第2戦は、終盤に一度は勝ち越すも、すぐに追いつかれる苦しい展開。まるで昨年行われたWBC決勝の日本対韓国戦を思い出される様な一戦となる。大会規定の制限時間が迫る中、両毛ボンバーズはチーム一丸となった継ぐ攻撃で見事決勝点を挙げ勝利し、決勝戦進出を果たした。この勝利で波に乗った両毛ボンバーズは勢いそのままに決勝戦に臨んだ。初回到り打者一巡の猛攻で、一挙に大量得点を奪う勢いに相手は圧され、白旗を挙げた。これにより両毛ボンバーズが頂点に立った。

リ八課

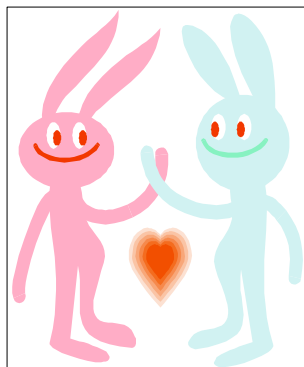
三二院内文化祭

「今回の文化祭は中止です。」私達はこの日、衝撃的事実を聞くこととなりました。文化祭3日前の出来事でした。世間の例にもれず、私達両毛病院も新型インフルエンザの煽りを受けてしまったのです。しかし、転んでもただでは起きないのが私達。11月6日、病院の中庭で小さな院内文化祭を催すことになりました。

綿あめやマスの塩焼きの屋台。ボウリング、輪投げ、フリスビーなどのゲーム大会。本番の文化祭とは程遠いものでしたが、屋台への長い行列や随所で沸き上がる歓声がそこにはありました。患者さんと職員の大輪の笑顔で、小さい会場は溢れかえったのです。新型インフルエンザがどんなに猛威を振るおうと、私達の文化祭への情熱を消すことはできません。

こうして三二院内文化祭は、大盛況の内に幕を閉じました。

リ八課



電車での晩秋の日光への旅

11月19日、20日にかけて、患者さん8名と職員2名にて、日光霧降方面へ一泊旅行に行つて来ました。今回は、いつもとは違いバスではなく、鉄道を利用しての旅でした。自動改札に戸惑う患者さんもありましたが、説明するとその後は切符を入れるのを楽しんでいくようにしました。出発時はどんよりとした曇り空でしたが、日光に到着する頃には、日差しが車窓から射し込んで、歓迎してくれているかのようでした。

ホテルに到着すると、浴衣を個々に選び、部屋に入りました。その後温泉に入り、夕食まで部屋でくつろぎました。夕食は、バイキングで、和洋中の料理や様々なデザートが揃っており、どれもこれも食べたくなるようで、選ぶのに一苦労のようでした。

帰りは、東武日光駅周辺の土産物屋等を散策し、そば屋で昼食を摂り、帰りの帰途につきました。患者さんからは、「いつもと違って、電車の旅もいいね」等の言葉も聞かれ、今後このような旅行が企画していけたらと思います。

看護課



水がおいしいとそばもおいしい

小春日和の11月26日、患者さん6名、職員2名で佐野市の蓬萊山方面におそばを食べに出発進行!! 日頃、外食をしない患者さんばかりでしたので、行く気十分、食べる気十分。車中での会話も「楽しみだね。」「うれしいね。」「笑顔。途中の山々は、里に下りてきた紅葉が、まるで日光と見紛うほど。」「田沼もこんなにきれいなんだね。」「とうとうり顔でした。」

いざおそば屋さんへ。古民家風の造り、今は見なくなつた土間。「昔はみんなこんな造りだったね。懐かしい。」と患者さん。天ぷらそばを注文し、待つこと20分。蓬萊山の湧き出る名水で打った一〇〇%地粉そば。挽きたて、打ちたて、茹でたてのそれはもう。「そばの味がする。」「おいしい。」「と、いつもは早食への患者さんも、ゆつくり味わっていました。

復路の途中、道の駅のおしゃれ空間でコーヒープレイク。8人で季節の移ろいを感じながら、おいしく楽しい時間を共有し、「また日帰りドライブに来たいね。」「と、うれしい言葉をいただき、帰路に就きました。

看護課



同好会紹介(4)

ゴルフ同好会

昨年、12月1日毎年恒例の院長杯ゴルフコンペを行いました。今回で5回目となり、参加人数16名と年々人数が減っているものの、ゴルフ好きが集まり、盛り上がりは年々増えています。全員が院長杯に向けて日々練習を行い、優勝トロフィーに名前を刻むため努力し、この日を迎えました。

当日は天候に恵まれ、私は全4組中第2組目でスタートしました。2ホール目を終えた時、後の組から大きな歓声が聞こえました。なんと恵一先生がチップイン・イーグルを決めたところでした。自分自身のプレーはというと・・・納得できる内容とは行かないものの、パーティーの方々と楽しくラウンドする事が出来ました。今年の優勝は中村先生で見事優勝トロフィーを手にされました。来年こそは私が優勝トロフィーに名前を刻める様に密かに決意・・・

その他ゴルフ同好会の活動は毎月恒例の定例会コンペ、他の病院との対抗戦コンペと年々増えています。特に対抗戦コンペは過去2回開催されていいますが両毛病院が連勝中です。今年の春には第3回目のコンペが行われますので私も両毛病院チームの一員として勝利に貢献出来るよう頑張りたいと思います。そして、勝ち負け以上に他の病院の方々との交流は私にとって大変有

意義な時間だと感じています。私はゴルフを通じて先輩方や他の病院スタッフの方々と交流を持つことが出来ました。これからもゴルフを通じ、沢山の交流が持てればと感じています。ゴルフに少しでも興味のある方は、同好会メンバー、もしくは程島まで声を掛けてください。一緒に楽しい時間を過ごしましょう！

看護課



ハーレーそりでツーリング

去る12月13日の昼下がり、快晴の空の下、エンジン音を轟かせながら数十台のハーレーに乗ったサンタクローズがやってきました。

サンタ達はハーレーから降りると手でアーチを作り始め、3病棟の患者さん達を招き入れました。アーチをくぐると、一人一人サンタからお菓子のプレゼントを手渡しされました。その後、サンタ達は「一緒にハーレーに乗りましょう。」と患者さん達を誘いました。すると、十数名ほどの患者さんがハーレー乗車を希望して、サンタの後ろにまたがったり、サイドカーに乗ったりして院庭をツーリングしました。

患者さん達を乗せたハーレーは颯爽と風を切り、その姿は見ていた患者さんや職員から歓声と拍手が沸き起こりました。

乗り終えた患者さん達は興奮しながらも、普段見られないような笑顔が浮かべていました。

年に一度のワイルドなサンタクローズのクリスマスプレゼントを患者さんは心から楽しんでいたようでした。

サンタさんの正体はモトシヨップコグレのボランティアの皆様でした。ありがとうございました。

看護課

主役はだぁーれ

昨年の12月18日(金)にクリスマス演芸会が盛大に行われ、各課それぞれ趣向を凝らした催しが披露されました。

両毛コーラスの歌声に始まり、我が栄養課のポニョも無事に終わると、第一病棟のシンケンジャー、2階病棟の軽やかなダンス、3階病棟の素敵なお白雪姫、管理棟の心が癒されるハンドベルの演奏と続きました。そして医局のコーラスでは、院長先生と副院長先生の美しいハーモニーが響き渡りました。

サンタクローズも登場し、お菓子のプレゼントがあり、患者さんがおいしそうに食べている姿がとても印象的でした。

演芸会の大トリは、毎年恒例の「白浪五人男」見ごたえのある演技に会場から大きな拍手が贈られ、素敵なおクリスマス演芸会を過ごすことができました。

栄養課



永年勤続表彰者

12月18日(金)マリアージュ仙水にて、開院記念式典及び越年会が行われました。式典では永年勤続者表彰式も行われ、表彰を受けた職員は秋山一郎院長より表彰状ならびに記念品が授与されました。また永年勤続者の代表者から受賞のお礼とこれからの決意について謝辞がありました。皆さん、おめでとうございます。

みんなの声

今回は12月9日に行われた12月生まれの誕生会に参加された患者さんの声を紹介します。

「ケーキがおいしかった。ビンゴが楽しかった。」 Sさん

「もう少しにぎやかな方が良かった。もっと他の人としやべれば良かった。ビンゴゲームにもっと賞品があれば良かった。」 Tさん

「普通だった。ビンゴゲームで3等が当たってよかった。」 Wさん

「今度はフライドチキンとフライドポ

テトが食べたい。ボウリングがしたい。」 Aさん

「何も当たらなかつたけど、ビンゴがおもしろかった。」 Yさん

「ご意見・ご感想を下さつた皆さん、ありがとうございます。」

編集後記

年末にその年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」が清水寺で発表されます。昨年は党新政権の誕生、新型インフルエンザなどで「新」という文字が選ばれました。今年はどうな漢字一文字が選ばれるのかわかりませんが、昨年よりは良い年になって欲しいものです。

連絡先

医療法人秋山会

両毛病院

〒327-0843

栃木県佐野市堀米町一六四八
〇二八三 一三二 六一五〇